

季刊誌

安川健人

Think Globally,
Act Locally

「地球規模で考え、地域から行動する」
横須賀から日本を変えよう！

～横須賀市議会 9 月定例議会報告～

8 月 30 日から 10 月 4 日までの日程で、9 月定例議会が行われました。

1、 「日本維新の会」会派を結成しました。

年長の安川健人が団長、ひろなか信太郎議員が副団長を務める二人会派です。日本維新の会の神奈川総支部、そして国政との連携を取りながら、既成政党とは違い「しがらみのない立場」で、市民目線で合理的な判断ができる会派として活動してまいります。

2、 一般質問で登壇し、前向きな回答を得られました。

6 月定例議会に引き続き、9 月定例議会でも一般質問を行いました。

- ① まちの魅力増進と人口増加について
- ② 浦賀レンガドックとまちづくりについて
- ③ 英語がしゃべれるまちづくりについて

3、 予算決算常任委員会が行われました。

市民の皆様からお預かりしている大切な税金が無駄に使われていないか？総務常任委員会委員として、精査いたしました。



安川健人 (やすかわ けんと)
明治大学大学院修了 (公共政策修士)
横須賀市議会「日本維新の会」団長
総務常任委員会委員

人口減少が止まらない横須賀市の対策と人口増加の移住・定住政策

横須賀市は、神奈川県内でも最も早いスピードで人口が減少しているといわれ、ピーク時は 43 万人あった人口が年々減少して、37 万人台になりました。自然減（少子高齢化により、誕生する人より亡くなる方が多い）が 8 割を占め、社会減では転入者が少ないことが主な原因です。

- ・ 「横須賀は半島という地勢上、交通の要所と成りにくく、平地が少ない為、住宅地の開発や企業誘致が難しい」
- ・ 「灰色のまちのイメージで転入者を呼び込めない状況にある」と分析されています。

上地市長は、横須賀復活の対策として、「音楽・スポーツ、エンターテインメントの力」を活用して、まちに活気を呼び戻すという政策を掲げ、まちを盛り上げる様々な新しい取り組みを積極的に行なってきました。ただ、横須賀に興味や魅力を感じた人が、横須賀で暮らすことを検討しようと思って市役所のホームページを検索しても

「空き家情報」しかヒットしません。横須賀市に興味や魅力を感じた人に、横須賀の暮らしやすさが伝わるワクワクするような素敵な移住・定住サイトの必要性を市長に質問しました。

上地市長からは「移住サイトの必要性を感じている」「改めて情報発信の仕方を検討する」という前向きな回答を得ましたので、今後の展開を注視していきます。



浦賀レンガドックと浦賀のまちづくりについて

浦賀は、ペリーの黒船来航、開国のまちとして、小学校の教科書にも掲載されている、横須賀市の中でも最も歴史と知名度のあるまちの一つです。

その浦賀の象徴とも言える住友重機械工業株式会社浦賀工場（通称；浦賀ドック）が2003年に閉鎖されてから、今年で20年となりました。駅前から東西に浦賀湾を囲むおよそ10万平方メートル近い広大なスペースが、これからどうなるのだろうか？多くの方が関心を持ち続けています。

上地市長が2017年に市長に就任以来、土地所有者である住友重機械工業株式会社との信頼関係を築き、定期的な情報共有や意見交換を積み重ね2021年3月に歴史的な価値のある「浦賀レンガドックとその周辺地域」、全敷地約9万9千平方メートルのうち、約2万7千平方メートルの寄付を頂きました。

浦賀レンガドック周辺区域の活用調査を行い、現在、様々なイベントが行われていますが、駅前エリアが老朽化している為、今後の開発の方向性について質問しました。



(浦賀駅から見た浦賀ドック)

市長からは「全体の利活用についてはサウンディング調査の結果を踏まえ、協議を着実に進めている」「近い時期に次の段階に進み、跡地の開発の方向性をお示し出来るよう進めている」と前向きな答弁。

海洋都市・横須賀の最重要拠点として位置づけられている浦賀の再開発。歴史ある港一体となった魅力あるまちづくりに期待し、今後の展開をご報告して参ります。

インターナショナルスクール誘致、英語がしゃべれるまちづくりについて

グローバル社会の中で世界の公用語として使われている英語ですが、その母国イギリスでは2019年から、国家戦略として「教育を輸出する」政策が打ち出されています。

「ザ・ナイン」と云われるイギリスの名門パブリックスクールなどが、姉妹校を海外に作り始めています。昨年2022年、日本の岩手県安比高原に「ハロウ・インターナショナルスクール安比ジャパン」を開校。また、今月（2023/9）には、千葉県柏市にラグビー発祥校として有名な名門「ラグビー・インターナショナルスクール・ジャパン」が開校しました。

横須賀市と葉山町にまたがる湘南国際村でもインターナショナルスクールの誘致を検討していた経緯があります。

上地市長も市長立候補当時「インターナショナルカレッジの誘致など英語教育の充実」を提言されているので、現在の市長の考えを伺いました。

上地市長からは、「民間企業者との連携、様々な調整、機運が合致した中で行われるもの」「インターナショナルスクールに関連した問い合わせもある」「進出に受けた可能性を探っていきたい」という答弁を頂きました。

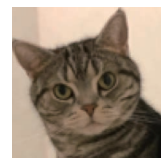


～身を切る改革を実践中～

日本維新の会では、議員報酬手取り額の20%相当を寄付に充てています。

5月から10月までの6ヶ月分は、以下の4つの団体に寄付させて頂きました。

- ・ どうぶつ基金（犬、猫の殺処分ゼロの実現に向けて活動している公益財団法人）
- ・ 日本盲導犬協会（盲導犬の普及・育成を念頭においた活動をしている公益法人）
- ・ ピンクリボン基金（認定NPO法人 J.POSH/日本乳がんピンクリボン運動 乳癌の啓発運動）
- ・ 日本自然保護協会（NACS-J 生物多様性を守る NGO 公益財団法人）



動物愛護、自然環境保護、家族の健康を願い、微力ですが、役立てて頂けると幸いです。

ホームページをリニューアルしました！

- ・ 「議員は何をやっているのか見えにくい」とよく言われます。SNSを通して積極的に発信して参りますので、是非、ご覧下さい。
- ・ 市民の皆様からのご意見をお寄せ下さい。皆様の声を市政に届けます。
- ・ インターン、ボランティア募集中。お気軽にご連絡ください。

